



Facebook 配信中!
今すぐアクセス!!



牧之原市議会だより

第67号

令和4年8月15日発行

6月定例会号

かけはし



第3次総合計画に関する特別委員会を設置!	5
8議員が市長に問う! (一般質問)	6
市民から生の声を聞く! (市民会議)	17

地頭方保育園 楽しく体を動かそう!

議案への主な質疑

牧之原市営住宅管理条例の一部を改正する条例

国が入居についての取り扱い通知を改正したことに伴い、優先的に先行し入居させることができる」と定めている配偶者からの暴力を受けた被害者の対象を広げるもの。

犯罪被害者等は含めないのか

問 なぜ今改正するのか。2月定例会で犯罪被害者等支援条例を制定したが、犯罪被害者については規定しないのか

答 国から公営住宅について適用範囲拡大の通知があった。犯罪被害者については、公営住宅法の趣旨や入居条件等もあり、精査、検討したい。



新型コロナウイルスの影響によりDV相談件数が増加しており、深刻化が懸念される。

市政に対する

総合的な質疑

さがらサンビーチの海の家について

問 さがらサンビーチについては、今年海の家が出店しないとのこと。市の観光として寂しいが、その経過は

海水浴場の駐車場について

問 駐車場の料金について、静波海水浴場は徴収するが、さがらサンビーチは徴収しない理由は。また、静波海水浴場は防犯対策として夜間閉鎖することだが、その時間帯は



感染対策を十分講じた上で開設となる海水浴場

答 昨年コロナ禍で出店したが、緊急事態宣言等が出されたことでかなりの赤字であったとのこと。2月頃には最終判断をする必要があり、まん延防止等重点措置が出されていたこともあって、昨年と同じ状況になることを心配して見合わせたかと伺っている。

答 静波海水浴場は整理員を置くことからその費用分として徴収する。また、周辺住民から防犯上の不安の声があったことから、夜7時から朝7時の間閉鎖するものである。

ヒトパピローマウイルスワクチンについて

問 子宮頸がん予防のためのワクチンとなるが、以前は国が推奨していたが副反応が多くみられ一時休止となっていた。再開となるに当たり、副反応が少ないワクチンとなっているのか

答 国の調査の結果、副反応の直接の原因は分かっているが、ワクチンを接種するという緊張感から起こる症状の一つともいわれている。接種が強制とならないよう丁寧に説明していく。



6月定例会 補正予算の審査

○今回の補正予算の主な内容

- ・遠隔窓口支援システムの導入に係る経費
・サテライトオフィス等の整備に係る経費
・市内消費喚起のためのプレミアム商品券の発行に係る経費
・榛原図書館の機能拡充に係る経費

一般会計補正予算(第3号)

増額となった根拠は

将棋タイトル戦開催実行委員会委託料 500万円増額

問 増額となった経緯と内訳は

答 当初予算で100万円計上していたが、王位戦に直接かかる経費として500万円、広報費が50万円、将棋大会等の開催費用として50万円の計600万円という具体的な金額が王位戦主催者側から提示されたためである。

一般会計補正予算(第4号)

庁舎トイレの洋式化は

トイレ改修工事

33万円増額

問 相良庁舎3階の男子トイレがまだ和式である。洋式に変えることを検討しているのか

答

庁舎のトイレに関しては随時工事を行っているが、全て洋式にすべきかということもあリまだ検討段階である。まずは自動水栓化を進めたい。

公募の結果は

オーガニックまきのはら推進事業業務委託料 500万円増額

問 公募期間を5月24日から6月14日まで設けていたが、その結果は。また、公募に際してかかった費用は

答 1者から応募があったため、6月17日にプレゼンテーションを行い、委託候補事業者を決定した。公募に要した費用は特にない。

集約後の面積はどうなるのか

移設改修工事

1192万円増額



ミルクウェイスクエア内の改修箇所(赤枠部分)

問 子育て支援センターと相良児童館をミルクウェイスクエア内に集約するためのものが、面積はどうなるのか

答 今回改修を行う箇所だけでは既存のものより小さくなるが、ミルクウェイスクエア全体で児童館機能を補完できるため、単純な比較は難しい。



「お〜いお茶杯 第63期王位戦」第6局が開催される平田寺

支援の棲み分けを

どのように考えているのか

問 事業に対しての商工会と（一社）まきのはら活性化センターとの棲み分けは

答 連携したり、重なったりする部分はあるが、基本的には商工会については商工業を中心に、まきのはら活性化センターについてはふるさと納税を含めて観光を中心に支援いただいている。

調査費の負担に関する

考え方は

石綿含有建材事前調査料
16万2000円増額

問 ミルキークウエイスクエアは市の所有物ではないが、費用は所有者ではなく工事発注者が負担するということか

答 一定額以上の改修工事を行う場合は、施工業者が必ず調査を行い県に報告する必要があることから、工事発注者である市が負担するものである。

金額の妥当性は

施設用備品購入費
1697万6000円増額

問 椋原図書館への図書自動貸出機の導入費用だが、その妥当性は。また、図書交流館「いこっと」に導入済みの貸出機と比較してどうか

答 参考見積を取得し、予算計上している。「いこっと」は他の機器と合わせて全体で1200万円ほどかかっている。



椋原文化センターの2階から1階への移動が計画されている椋原図書館

大幅な増額となった根拠は

実施設計業務委託料

280万円増額

問 椋原図書館の整備に関するものだが、大幅な増額となった根拠は

答 当初予定していた狭小な環境を改善するための1階への移動だけでなく、コロナ対策を踏まえた環境整備という観点も新たに加えたことにより増額となったものである。

国民健康保険特別会計補正予算（第1号）

税率に変更はあるのか

問 令和4年度の税率は令和3年度から変わっているのか

答 国民健康保険税例を改正したことにより、限度額については3万円の増額となっているが、所得割、資産割等の税率については令和3年度と同じ税率となっている。

討論

令和4年度牧之原市一般会計補正予算（第4号）

（木村議員）

反対 図書館整備事業費のうち、椋原図書館の整備に係る実施設計業務委託料について、当初予算に計上されていた220万円に280万円が増額補正され500万円となっている。しかし、この増額補正については、積算根拠が不明であり、官庁施設の設計業務等積算基準との整合性についても説明不十分である。

（原口議員）

賛成 本補正予算は、原油価格や物価の高騰の影響を踏まえ、国の地方創生臨時交付金を活用するもので、当初予算編成後の状況変化を鑑み、市民生活と地域経済を守る施策を速やかに講じるため早急に執行する必要がある。椋原図書館機能拡充に要する費用の積算根拠の説明については、指摘すべき点もあったが、予算額については妥当である。

「第3次牧之原市総合計画に関する特別委員会」を設置しました

令和4年6月10日の本会議におきまして、「第3次牧之原市総合計画に関する特別委員会の設置」が議員全員により発議され、全会一致で可決されました。

この特別委員会は、令和5年度から令和12年度までの8年間の牧之原市のまちづくりの根幹となる第3次牧之原市総合計画の策定に関して、議会としても十分な調査、研究および議員間討議を行い、今後上程される基本構想に関する議案についてもしっかりと審査する必要があること。また、総合計画の策定に積極的に関与することで、議会としての責任を明確にし、市民への説明責任と開かれた議会を目指すことを目的に、牧之原市議会としては初めて設置したものです。



会議の様子

※総合計画とは

まちづくりの総合的な計画として、最も上位に位置づけられ、基本的な指針となるもの。以下の3層で構成されている。

【基本構想】・・・まちづくりにおける基本的な考え方や将来都市像等を示すもの。計画期間は8年間。

【基本計画】・・・基本構想を踏まえて、政策の体系と個別の施策の方向性を示すもの。計画期間は4年で、基本構想の計画期間の半分で見直しを実施。

【実施計画】・・・基本計画に基づき、実施する事業を具体的に示すもの。計画期間は4年で、毎年見直しを実施。

＜委員構成＞

全議員

委員長：太田佳晴
副委員長：中野康子

＜任期＞

第3次牧之原市総合計画が策定されるまで

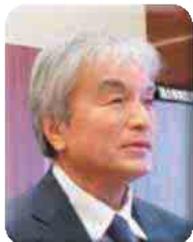
～議決結果と概要～

・6月定例会（全会一致のもの）

報告	件名	結果	概要
報告	令和3年度牧之原市一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について	報告	3億1,726万8,000円を令和4年度に繰り越すもの。
予算補正	令和4年度牧之原市一般会計補正予算（第2号）	可決	1億700万円を増額し、予算額を210億7,430万円とするもの。
専決処分	専決処分の承認を求めることについて（牧之原市税条例等の一部を改正する条例）	承認	地方税法等の一部を改正する法律の施行に伴い、住宅ローン控除の適用年度の延長、上場株式等の配当控除に係る課税方式の見直し等について、必要な規定を整備するもの。
専決処分	専決処分の承認を求めることについて（牧之原市国民健康保険税条例の一部を改正する条例）	承認	地方税法施行令等の一部を改正する政令の施行に伴い、国民健康保険税に係る課税限度額を引き上げるもの。
改正条例	牧之原市営住宅管理条例の一部を改正する条例	可決	国が入居についての取り扱いを改正したことに伴い、優先的に先住し入居させることができる旨と定めている配属者からの暴力を受けた被害者の対象を広げるもの。
補正予算	令和4年度牧之原市一般会計補正予算（第3号）	可決	1億1,205万7,000円を増額し、予算額を211億8,635万7,000円とするもの。
補正予算	令和4年度牧之原市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	可決	334万8,000円を増額し、予算額を50億7,096万9,000円とするもの。
決議	第3次牧之原市総合計画に関する特別委員会の設置について	可決	今後8年間のまちづくりの根幹となる第3次牧之原市総合計画の策定に関して、十分な調査・研究および議員間討議を行い、議会として責任を明確にし、市民への説明責任と開かれた議会を目指すため、特別委員会を設置するもの。

・6月定例会（賛否が分かれたもの）

結果	石山	谷口	網村	名波	加藤	木村	松下	種茂	瀬崎	瀬口	太田	中野	大石	村田	植田	概要
○：賛成 ●：反対	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1億4,672万7,000円を増額し、予算額を213億3,308万4,000円とするもの。
補正予算	令和4年度牧之原市一般会計補正予算（第4号）	可決														



まつした さだひろ
松下 定弘

質問の様子はこちら
-動画配信中！-



地方創生臨時交付金の取り扱い

問 学校給食の現状と給食費維持への交付金の活用は

答 現在、相良地区は1日約1500食、榛原地区は1日約1700食の提供を受けている。食材に関する高騰は確認しているものの、年度内における物価上昇率の見込みがこの数カ月の状況では不透明であることから、本定例会での補正予算の計上は見送っている。当面は通常通り提供を続けていくとともに、食材の高騰に対し、適切に負担を軽減するよう次の交付金において対応していく。

問 地元産の食材を活用することで供給の安定化が図られるとともに、地域振興にも有用と考えるが

答 「地域の産物がわかり食卓に並べる」を基本方針の一つに掲げ、地元でとれた食材をさまざまな場所で食べる機会が増えるよう推進している。また、現在計画中の「さかべ道の駅」は、地元の農産物を中心に販売する地域振興施設として予定しており、地産地消のよい事例になると考えている。



新型コロナウイルス感染症の長期化や、ウクライナ危機に伴う原油価格・物価高騰の影響により、市民や事業者はさまざまな分野で大きな負担を強いられている。このような状況において、国は総合緊急対策として原油価格・物価高騰に対応するよう交付金を拡充し、生活に困窮する方々への「生活支援」や、農林水産業者や運輸・交通分野への「産業支援」について、各自自治体の判断で活用できるようにした。そこで、この地方創生臨時交付金の活用について伺う。



問 「産業支援」としての交付金の活用は

答 バス事業者に対しては、毎年関係市町と協議し欠損補助を実施している。タクシー事業者に対しては、県が実施する車両維持費補助への上乗せ補助を予定している。トラック等の物流維持に対しては、国が実施する補助によりガソリン価格が横ばいとなっていることから、市としては現在予定していない。公共料金の補助については、現在は直接補助することは考えていないが、家計への負担軽減を図るため、プレミアム率をこれまで以上に引き上げた商品券の発行を予定している。



たにくち しげよ
谷口 恵世

質問の様子はこちら
-動画配信中！-



男女共同参画社会の実現について

問 牧之原市の男女共同参画について

答 平成21年度に、市民協働、男女共同参画、生涯学習を網羅した牧之原市男女共同学習行動計画を策定。平成27年度からは、第2次総合計画の重点戦略へ位置づけ実施計画でさまざまな課題解決に取り組んできた。未策定の状況は是正し、国や県の計画、第3次総合計画を踏まえ、議員から提案いただいたセンターやプラットフォーム等の設置も含め、実体重視の計画にしている。



問 「日本一女性にやさしいまちづくり」について

答 若者、特に女性の人口減少が課題であり、こどもセンターの設置、不妊治療に係る医療費助成等、市独自の取り組みを進めている。女性の活躍、新しい働き方の創出に関しては、「3万円ビジネス」、牧之原サポートデスクへの女性相談員配置等、女性事業者の支援をしていく。また、民営化により保育環境を充実させるとともに、市内における女性活躍企業からの横展開による雇用環境充実等も進めていく。



市内の女性活躍企業

問 不妊治療に係る医療費助成について

答 助成制度の市外への周知については今後検討していく。年齢制限については、現時点では43歳未満とするが、引き続き情報収集しながら精査していく。

問 3月8日の国際女性デーにイベントを

答 今年度開催を予定している男女共同参画関係の講演会をその日に合わせて行う等検討していく。

一般質問

学校へ通えない、通わない、不登校になる子どもたちが増えている。その理由や個々の背景は一人一人異なるが、義務教育の在り方が現代に適していない面もあるのではないかと。児童生徒一人一人の気持ちやさまざまな特性、また保護者の不安な気持ちに寄り添い、十分な信頼関係を構築しつつ個々に応じた支援を行うことが重要である。そこで、不登校児童生徒への対応に関して、以下について質問した。

教育の機会をどう保障していくか



かとう あきら
加藤 彰

質問の様子はこちら
-動画配信中！-



問 教育機会確保法の趣旨を踏まえた対応は、不登校は問題行動ではない、不登校は悪いことではない。また、心の休養の必要性を伝えており、学校以外でも学習活動等を行う場として、適応指導教室フルールや、市内にあるフリースクール等を紹介している。



登校拒否・不登校を考える
全国ネットワーク作成の
リーフレット



パパママ子育てだいじょうぶ
つく作成委員会作成の
リーフレット

問 これからの学校づくりをどう考えるか

答 これからの学校は多様な性がある。学校の教員だけでなく、子どもたちの指導に当たるのではなくて、地域の人、保護者、専門家とか、そういった方々の力を借りて子どもたちが将来、社会で活躍できるように、家にもってしまっただけで、社会との接点をなくしてしまいうようなことがないような形で、教育に当たっていくことが重要だと思うし、そういった学校を、市民皆さんでつくっていったらと思う。

問 フリースクールとの連携強化は

答 学校教育の枠組みに収まらない子どもたち、そんな子どもたちを受け入れる場としてのフリースクールは、市の適応指導教室フルールや、「こころの教室」とともに、子どもたちの可能性を伸ばす場として有意義であると認識している。フルールであれば、校長の判断で、その日は出席の扱いにするということが出来る。これまでフリースクールの状況は、そこまで行っていないが、今は官民一体となって学校とフリースクールをつないで、その子のその日の様子、今の状況を連絡し合うということも、一つの大きな連携の進歩ではないか。こんなことも取り組んでいきたいと思う。

総合計画をさらに充実させ、牧之原市が持続可能であるためには、「若者」と立案された計画を確実に推進、実行でき、市民を支える「人財」が重要になる。第3次総合計画の概要説明では、牧之原市の最大の課題は「若者の減少」であると明言され、また第2次総合計画では、行政職員について「市民の期待に応える人財の育成」が示されている。

ななみ かずあき
名波 和昌

質問の様子はこちら
-動画配信中！-

若者の減少対策と人財育成を問う

問 若者の減少の最大の要因とその対策は

答 最大の要因は、子どもを産み育てる環境、教育環境、就労環境、買物や交通の利便性、震災リスク、住宅用地の供給など、複合的なものと捉えている。ニーズに応えるため、津波避難施設の整備や図書交流館などの交流拠点の確保、移住・定住に関わる支援策、子育て世帯への経済的な支援の充実、防災施設を兼ねた多目的体育館の整備、日本一女性にやさしいまちの推進など、若者が住みやすい暮らしの創出に重点的に取り組んでいく。



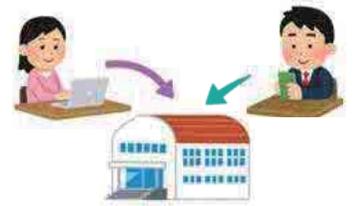
問 「市民の期待に応える人財の育成」とは

答 人財育成基本方針において、市が目指す職員像を「20年後も市民や組織から必要とされる職員」と定め、その行動指針として、「対話により信頼関係を築くことができる職員」「自分自身の成長のために意欲的である職員」の3点を掲げている。職員には策定時に、新規採用職員には採用時研修の中で目指す職員像を示し共有を図っている。人事評価制度は、平成25年から本格的に全職員に導入している。

評価者研修は課長昇格時に実施し、さらに評価の平等性、公平性を保つために検診を進めていく。職員研修については、市単独で行うものに加え、県や市町村振興協会が主催するもの、御前崎市、菊川市と3市合同で主催するものに対応している。またデジタル化を推進し、ルーチンの仕事はAIに任せ、職員がやることは市民の皆さまとの対話である。市民の気持ちをしっかりと聞き取って、それを政策に示していくことが大変重要だと捉えている。

一般質問

高度経済成長長期に整備された公共施設が一斉に老朽化し、建て替えや修繕する時期を迎えようとしている。同時に、人口減少が進むことで労働人口が減り、どの自治体も職員の減少とともに財政状況が厳しくなることが推測される。そこで、今後の施設整備計画と併せ職員が減少しても行政サービスが維持できるよう、DX化推進を視野に入れた「公共施設の利用性向上と運営管理」について伺う。



ネット予約なら
時間も場所も選ばず予約ができる

問 使用時間や貸出時間区分について、改善や見直しの必要性を感じているのか

答 現在のところ見直しは考えていないが、予約システムの導入などの機会にシステムに応じた貸出時間区分などの見直しについて、検討を行うよう考えている。

問 使用時間や貸出時間について、利用者との間やおよび利用者間でのトラブルや問題はないのか

答 それぞれの施設において、利用者の間でのトラブルや問題などは発生していない。

予約システム導入は

問 貸し出しをしている公共施設について今後、予約システムを導入していくつもりはあるのか

答 多目的体育館については、インターネットを活用した予約システムを導入する予定で、市内の社会体育施設でもシステムが利用できるよう、指定管理者候補者と協議していく。その他の公共施設については、社会体育施設へのシステム導入後、検討していく。

問 公共施設の利用頻度における負担の公平性は保たれているのか。現在の利用料金のままで、今後の施設の維持管理費用などを捻出することができると

答 各施設については、施設の設置目的に応じて市民が利用しやすいよう、使用料等も考慮して定めていることから、施設の維持管理費の全てを使用料から捻出することは考えていない。しかし、行財政改革の観点から、使用料などを見直しの必要性も含めて、今後、市全体で検討していく。



予約システム導入が
予定されている多目的体育館

はまぎき かずき
濱崎 一輝

質問の様子はこちら
-動画配信中！-



これから多くの市町村は、人口減少に伴い市場が縮小されていく中で、外貨を稼いでいかななくてはならない。相良総合センターいっくらにおいて行われた2020東京五輪ホストタウン記念講演にて、スポーツリズムについて話があった。

いしやま かずみ
石山 和生

質問の様子はこちら
-動画配信中！-



観光施策について伺う

問 牧之原市として、マリンスポーツも含んだスポーツリズムを取り入れていく考えはあるか

答 現在、整備を進めている多目的体育館におきまして、指定管理者候補者から、プロスポーツの試合や全国規模の大会などを誘致し、多くの方で賑わう施設にしたいとの提案がなされている。スポーツを通して市内を訪れた方々が、地元産の食材を使った料理を食べ、市内の観光スポットを巡っていただき、当市に魅力を感じることで、また訪れてみたいという好循環を生む観光のコンテンツの一つとなるよう、スポーツリズムに取り組みむことが必要である。



多文化共生の政策について伺う

前回の質問にて、牧之原市では令和4年度から外国籍の方々の職員採用も検討すると伺った。しかし、多文化共生を進めるための新しいポストが用意されたというのではなく、今までもおりの採用要件に、外国籍の方々の採用が可能となる内容であったのではないかと考えている。

問 他の課が、外国人の方々への対応をする際に、外国人と市役所をつなぐボスト、人材が必要なのではないかと考える。出入国在留管理庁が出している、外国人受入環境整備交付金を活用し、実現することは考えられるか

答 今後、外国人労働者の増加による相談件数の増加や相談内容の複雑化が見込まれることから、新たな相談員等について、令和5年度からの配置に向けた取り組みを進めていく。現在、相談窓口が未設置である当市としては、課題解決に向けた効果的な交付金であると捉えているので、令和5年度の採択に向け、取り組みを進めていく。

○その他の質問
牧之原市の人事・評価制度について

一般質問

昨年12月に国の有識者会議が、大井川水資源問題に関する中間報告、今年4月には、JRR東海出席のもと静岡県の専門部会が開催された。

問 国の有識者会議中間報告の評価について伺う内容は尊重して受け止める。しかしリニア事業の採算性や具体的工法、想定外の事態が生じた場合の対応、生物多様性の保全の視点で具体的内容が示されておらず、安心できるというものではない。



沢枯れの原因であるトンネル湧水（山梨県笛吹市）

問 JRR東海が示した、トンネル工事で県外流出量が大井川に戻す方策としてA案（ポンプアップ）について伺う

る箇所でもあり、根拠となるデータや不確実性の担保を示すべきと考える。

答 技術的には可能であると認識している。トンネル湧水の水質、水温等がそのまま河川に流せるものかといった、環境への対策など、課題があると評価している。

問 南アルプスルート採択について、JRR東海は「巨摩山地の北中部の一部は地質がぜい弱で、高圧湧水が発生する恐れがありこれを回避」した。しかし現ルートにおいても、有識者会議では「高圧大量湧水の発生が懸念される」と指摘。矛盾していないか

答 田代ダム取水制限するB案について伺う

答 JRR東海は路線の決定過程を説明し、不透明性を解消すべき。

問 延期してきたリニア問題の市民勉強会をいつ開催するのか

答 開催の方法と時期を、県および流域8市2町で検討していく。

○その他の質問
生活困窮者の現状と支援体制について

おおいし かずお 大石 和央

質問の様子はこちら
-動画配信中！-



リニア工事についての評価は

問 牧之原市として合併後も二つの焼却施設を稼働しているが、築後22年以上経過し施設経費が増えている。こうした中、ロシアによるウクライナ侵攻は急激な原油高、またウクライナの小麦粉輸出の崩壊により、日本経済にも深刻な状況を与えている。生活においてのごみ処理は欠かせない課題であり、そうした観点から、人口減少に対応する施設マネジメント計画の方向性、急激な原油高や燃料費高騰によるごみ処理費対策について、今後の取り組みを伺う。

答 冬場の渇水期に県外流出分を戻す表流水が常にあるか、疑問を持って受け止めている。また、トンネル工事により、地下水位が約300m低下すると想定している。

きむら まさとし 木村 正利

質問の様子はこちら
-動画配信中！-



2つのごみ焼却場と処分費は

問 既存2地区焼却施設の公共施設マネジメント計画による方向性は



2つの焼却施設

答 人口減少が進む中、静岡県では、「静岡県一般廃棄物処理広域化マスタープラン」を令和4年3月に策定した。市としても、県のマスタープランに沿った形で、組合構成市町である御前崎市や吉田町と協議を進めながら、まずは二つの組合施設の集約化に取り組んでいく。

問 一般廃棄物処理費増加についての施策はどうか

答 リニア問題を論じると同時に表流水確保や治水に恒久的に対応できるような備え、安心を担保することが必要。流域市町が連携し国県に対し、天竜川では国がダム再編事業を進めており、同等の対応を要望していく。畑薙橋上流の赤崩をはじめ、土砂流出に対し、流域市町で協議し、県に対応を要望していく。

答 令和2年度の数値を平成29年度と比較すると、ごみ処理量は、牧之原市御前崎市広域施設組合では0.4%減少し、吉田町牧之原市広域施設組合では3.6%増

加している。処理費用は、牧之原市御前崎市広域施設組合では6.7%、吉田町牧之原市広域施設組合では7.9%ともに増加している。ごみ処理人口が減少する中、ごみの排出量をできるだけ減らし、また環境負荷およびごみ焼却施設への負担軽減を図ることが重要である。



市HP（環境課所管部分）より

議員研修会を実施しています！

市議会では、議員の政策形成および立案能力の向上を図るため、各分野の専門家等を講師にお招きし、議員研修会を実施しています。令和4年度に入り、これまでに4回実施しておりますので、その内容について報告します。

【開催日】
令和4年5月9日
【テーマ】
令和4年度牧之原市議会議員
研修「一般質問編」
【講師】
TKDコンサルタント
代表 高田和幸 氏



令和3年の議員改選により、議員の半数が新人議員となったことも考慮し、一般質問の基礎を習得し、今後に生かすことを目的に、TKDコンサルタント代表の高田氏を講師にお招きし、実施しました。

高田氏は、令和4年3月まで御前崎市役所に勤務されていた方ということもあり、これまでの豊富な行政経験を基に実例を交えながら、一般質問を行う際の「いい」論点を支える「等」の「いい」一般質問をするための方法等についてお話をいただきました。

一般質問とは、議員が牧之原市の行政全般にわたり、執行機関に対して事務の執行の状況および将来に対する方針等について所信をただしたり、報告または説明を求めたりするもので、2月、6月、9月、11月の定例会において行われています。

市議会には、執行機関の行政の運営や事務処理、事業の実施が全て適法・適正に、公平・効率的に、そして民主的になされているかどうかを批判し、監視する使命があります。今回の研修で学んだことを生かし、今後も引き続き議員一人一人の質問力を向上させていくとともに、議員個人の力を議会としての力につなげていきます。

「第6次エネルギー基本計画」の概要について学び、今後のエネルギー政策についての見識を深めることを目的に、経済産業省資源エネルギー庁から前田氏を講師にお招きし、実施しました。

「第6次エネルギー基本計画」は、令和3年10月に閣議決定されたもので、「2050年カーボンニュートラル」等の実現に向けたエネルギー政策の道筋を示すこと「安全性の確保を大前提に安定供給の確保やエネルギーコストの低減に向けた取り組みを示すこと」を2つの重要なテーマとして策定されています。当日は、「エネルギー基本計画



の概要「原子力政策」「再生可能エネルギー」といった内容について説明をいただき、議員からは「バイオマス発電における今後の資源の中心は何か」「将来的な風力発電における洋上と陸上の割合は」といった質問が出ました。

牧之原市も令和3年1月に「ゼロカーボンシティ」を宣言しており、このエネルギーに関する分野は、今後ますます重要なものとなることが予想されます。今回の研修会で学んだことを生かし、今後も市が実施していくエネルギー政策を注視していきます。

【開催日】
令和4年5月19日
【テーマ】
「みどりの食料システム戦略」について
【講師】
関東農政局静岡県拠点
地方参事官 秋山憲孝 氏

総務建設委員会において、所管事務調査事項である「持続可能なまちづくりについて」の調査、研究を進めている中で、「基幹産業である農業の生産性の向上と持続性の両立を図ることが必要」との意見が出されたことから、令和3年5月に公表された「みどりの食料システム戦略」について学ぶことを目的に、関東農政局静岡県拠点地方参事官の秋山氏を講師にお招きし、実施しました。（総務建設委員会の所管事務調査事項ですが、基幹産業である農業に関するものであることから、全議員を対象として実施しました。）

「みどりの食料システム戦略」とは、「温暖化、大規模自然災害」などの影響により、農林水産業



や地域の将来も見据えた持続可能な食料システムの構築が急務であったことから、持続可能な食料システムの構築に向け、中長期的な観点から調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取り組みと、カーボンニュートラル等の環境負荷低減のイノベーションを推進していくために、令和3年5月に農林水産省が決定・公表したものです。

総務建設委員会では、今回の研修会の内容を参考に、具体的な提言書の作成に向けて引き続き調査、研究を進めていきます。

【開催日】
令和4年5月12日
【テーマ】
エネルギー政策について
【講師】
経済産業省資源エネルギー庁
電力・ガス事業部 原子力立地・核燃料サイクル産業課 原子力立地政策室 / 原子力広報室
室長 前田博貴 氏

「第6次エネルギー基本計画」の概要について学び、今後のエネルギー政策についての見識を深めることを目的に、経済産業省資源エネルギー庁から前田氏を講師にお招きし、実施しました。

「第6次エネルギー基本計画」は、令和3年10月に閣議決定されたもので、「2050年カーボンニュートラル」等の実現に向けたエネルギー政策の道筋を示すこと「安全性の確保を大前提に安定供給の確保やエネルギーコストの低減に向けた取り組みを示すこと」を2つの重要なテーマとして策定されています。当日は、「エネルギー基本計画

【開催日】
令和4年5月20日
【テーマ】
対話の必要性
「ファシリテーションスキルを使った場づくり」
【講師】
Musubi
代表 原口佐知子 氏

会議や意見交換の場における聞く力、伝える力およびまとめる力のさらなる習得を目指すことを目的に、Musubi代表の原口氏を講師にお招きし、実施しました。

原口氏は、2007年より牧之原市の協働の取り組み「対話の場」のファシリテーターとして活動されており、市の政策や施策、計画づくりなど、さまざまな課題をテーマとし、400回以上のワークショップに関わっているほか、「(社)会議ファシリテーター普及協会の認定ファシリテーター」として全国の自治体職員等への研修も行っておられます。

原口氏からは、「ファシリテーションとは」会議・対話・討論



の「違い」といった内容についての説明があり、その後「これから地方議会に求められるものは」というテーマのもと、4グループに分かれてワークショップを行いました。各グループからは、「市民に開かれた議会」「政策立案能力が高い議会」「時代の変化に対応できる議会」といった意見が出され、ワークショップの方法や有効性を学ぶとともに、今後牧之原市議会が目指すべき姿を再認識することができました。

今回の研修会で学んだことを生かし、今後の議会活動、議員活動に取り組んでいきます。

市民から生の声を聞く！

～市議会では各種団体と意見交換を積極的に実施しています～

令和4年度に入り、各常任委員会で実施した市民会議について報告します。

総務建設委員会
×
**一般社団法人
まきのほら活性化
センター**

【開催日】
令和4年6月7日
【参加者】
事務局長、観光担当、
ふるさと納税担当、
総務担当

「持続可能なまちづくりについて」という調査研究テーマの下、「海岸を利用した通年型の観光戦略」ふるさと納税を活用した地域産業の活性化について」という2つのテーマについて、ふるさと納税を含んだ観光に関する事業を実施している（一社）まきのほら活性化センターの方々と意見交換会を実施しました。

「海岸を利用した通年型の観光戦略」については、ウェイブプールがで、「RIDE



ON MAKI INOHARA」という市の公式スローガンにもびったりな状況であり、これを推していくといった話がありました。「ふるさと納税を活用した地域産業の活性化について」は、現在釣り船体験等を返礼品としているが、ウェイブプール利用券などの他の体験メニューも返礼品に加えるなど、ふるさと納税から観光にもつなげていきたいといった話がありました。

市の活性化には、海は欠かせない資源です。今回の意見交換会で頂いた意見を、今後の提言に生かしていきます。

総務建設委員会
×
牧之原市商工会

【開催日】
令和4年6月21日
【参加者】
会長、副会長、理事
(各部会長)、事務局長

総務建設委員会では、「持続可能なまちづくりについて」を調査研究テーマとしており、少子高齢化が進む中、持続可能なまちをつくるべく、「海岸を活用した通年型の観光戦略」「食文化の新たな創造と継承」増加し続ける市内空き店舗の活用」「女性起業家の育成・支援」「中小企業向け工業団地の造成」「スマート農業への取り組み」の6項目について、牧之原市商工会の会長、副会長、各担当部会長の方々と意見交換会を実施しました。



意見交換では、スタートアップ支援や企業誘致について、海を基盤としてさまざまな活動を展開する「ビーチクラブ」について、農業従事者を絡めたM&Aについて、津波対策を含めた中小企業の高台移転について、女性が子育てしながら起業できる環境整備についてなど、多くの内容について積極的に意見交換が行われました。

今回の意見交換で頂きました意見や課題を参考に、9月の提出を予定しております市長への提言に向けて、さらに調査研究を進めていきます。

文教厚生委員会
×
**学校法人 榛原学園
(各園の保護者)**

【開催日】
令和4年6月27日
【参加者】
事務局長、各園（静波保育園、細江保育園、川崎幼稚園）の保護者



【意見交換会テーマ】
● 子育てに関する困りごとについて
● 牧之原市における子育て環境について（メリット・デメリット）
● 子育て世代にとつての「魅力あるまち」とは
● 子育て支援施策について、市および市議会へ求めること

参加者からの主な意見は次のとおりです。

【公園に関する意見】

- 公園には1、2歳でも遊べる遊具などもあってほしい。
- 整備されていないところや危険な遊具が多くあり、安心して遊ばせることができる環境が少ない。
- 雨の日でも遊べる室内パークがほしい。

【子育てサポートに関する意見】

- 公園の近くにカフェがあり、WiFiが使えるところほしい。
- 子どもを完全に見守る目を離れた場所で見守らせる場所というのがなかなかない。
- 子どもを見守ってもらうというよりは、家事をしてもらえるようなサービスがほしい。
- 支援センターの先生が話をよく聞いてくれて助かる。
- 市が行っているファミリー・サポート・センターについて、利用方法等を含めよく分からない。

【その他】

- 学校の連絡等について、メール・ネットなどで出欠連絡もできて助かる。
- 行政サービスと子育て世帯が求めているものとの間にギャップがあると感じる。
- 街灯や歩道がなくて怖い。



● 子どもと一緒に楽しめる場所、レストラン等があるマップなどがあるとうれしい。

● 子どもたちと一緒に楽しめるアートや音楽などのイベントなどが増えてほしい。

意見交換を通して、公園に対する意見がと多く感じるとともに、子育て中の皆さまが本当に必要としているサービスを提供しなければならないこと、すでにあるサービスも認知されていないこと等の問題点を感じました。

今回の意見交換会で頂いた意見等を生かし、さらなる調査、研究につとめていきます。



追跡! 提言書のその後を検証!

○教育環境の整備について（平成 29 年提出）

幼稚園から中学校までの一貫した教育理念のもと、連携した教育を推進すること。



乳幼児期からの子どもの発達や学習の連続性を重視した取り組みが進められている



「牧之原市小中一貫教育推進計画」に基づき、それぞれの中学校区において小中一貫教育を研究テーマとし、9年間の連続的・系統的な教育を目指し教育実践に取り組んでいる。幼稚園と義務教育との連携については、文部科学省から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明示されている。幼稚園、小学校それぞれにおいてその姿を意識した教育を行っており、低学年において年長児を授業に招いて学習の成果を披露したり、一緒に活動するなどの交流を通して、職員間において子どもの成長を通じた連携が行われ、情報交換の場にも役立っている。



令和3年度に開催されたアースランチフェスティバルの様子

○教育環境の整備について（平成 29 年提出）

子どもが社会的・職業的に自立して強く生き抜くための意欲・能力を身につけることが求められていることから、現在実施されているキャリア教育のさらなる推進を図ること。



「起郷家＝郷に学び、将来を見通し、自ら行動を起こす」人材を育成することを目指し、牧之原市のキャリア教育＝「起郷家教育」として推進している。「地域」「社会の仕組みの勤労」「防災と命」を柱とする体験型の起郷家教育のプログラムを開発中であり、「アースランチ創作」はそのプログラムの一つとして実施している。「社会の仕組みと勤労」プログラムは令和3年度に開発し、試行期間を経て令和6年度に完全実施予定で、「防災と命」プログラムは令和4年度から開発している。



各常任委員会では、「所管事務調査事項」を定め、市の課題等について調査・研究を行っています。調査・研究した結果については、提言書として議会（委員会）から市長へ提出をしています。これまで提出した提言が、その後、市政にどのように生かされているのか検証します。

○「活力あるまちづくり」施策の推進について（平成 27 年提出）

「婚活、新婚世帯・子育て支援」から「高齢者元気対策」までの切れ目のない施策を支援していくことで、市民全体の公平性を保つよう事業実施していくことが必要である。



「RIDE ON MAKINOHARA おかえりプロジェクト」の概要図



結婚した際の賃貸住居の賃料等を補助する「結婚新生活支援金」に始まり、出産に向けた「妊産婦通院等支援事業」、幼児教育・保育料の無償化等の出産後の支援、市内で住宅を取得する40歳未満の夫婦等への「子育て家族定住奨励金」、そして、県内外に進学した市内の学生が地元企業に就職することで、地域経済の担い手となる人材の確保を図る「RIDE ON MAKINOHARA おかえりプロジェクト」を実施するなど、切れ目のないサポートを全庁体制で取り組んでいる。



大河ドラマ誘致に係る署名用紙の表紙

○市の活性化と観光について（令和元年提出）

「田沼再興」をテーマとした取り組みをスタートさせたが、今後も田沼意次侯をシティプロモーションの柱の一つとして活用するために、各種イベントにおける周知・啓発等を図り、県内外からの誘客に結びつけるよう努めること。また、近隣の自治体や経済・観光関係団体と連携、協力し、NHK大河ドラマ等の誘致活動を進めるよう検討すること。



地元高校や菓子店とのコラボ商品、全国初となる銅像の建立、史料館での限定御城印販売などに取り組み、市ホームページやSNS等で積極的に情報を発信したほか、史料館において田沼家関連の常設展示を行い、誘客に努めている。また、令和3年12月19日の記念講演会においてNHK大河ドラマの誘致を宣言しており、誘致推進組織を立ち上げ、署名活動を中心に市内外から多くの賛同者を募り、NHKへ要望・働きかけを行っていく。

浜岡原子力発電所を全議員で視察しました！

令和4年4月22日に、令和3年の議員改選により議員の半数が新議員となったため、また東日本大震災から11年が経過した中で現在の状況を確認するため、浜岡原子力発電所を全議員で視察しました。

当日は、原子力館にて概要説明を受けた後、安全性の向上のために行われた防波壁、緊急時海水取水設備などの現場を視察したほか、防護服に着替えて放射線管理区域内にあります原子炉建屋、原子炉格納容器内などの視察も行いました。



説明を聞く様子

質疑応答の時間において、議員からは「新規基準への適合審査の状況は」、「停止して11年が経ち、実務経験がない職員が増えていることへの対応は」、「再生可能エネルギーに対する考えは」など、さまざまな質問が出されました。

牧之原市議会は、東日本大震災における福島第一原子力発電所の事故を受け、平成23年9月26日に「浜岡原子力発電所に関する決議」を賛成多数で議決し、浜岡原子力発電所については、「確実な安全・安心が将来にわたって担保されない限り、永久停止にすべきである」旨を表明しています。

また、「第6次エネルギー基本計画」においても、原子力政策についてがうたわれているなど、エネルギー政策の観点からも大変重要な問題でもあります。今後も引き続き対応をしっかりと注視し、市民の安全・安心を守っていきます。



防波壁を視察する様子

議会を傍聴してみませんか

9月定例会の日程

- 9月1日(木) 提案説明
- 9日(金) 通告質疑
- 13日(火) } 一般質問
- 14日(水) } ※15日は一般質問者数が
- 15日(木) } 13人以上の場合
- 30日(金) 審議・採決

※決算連合審査会 9月20日(火)、21日(水)、22日(木)
 ※補正予算連合審査会 9月26日(月)



もっと市議会を知ろう！

傍聴する

市議会で行われている会議は全て公開です。



録画配信を見る

一般質問はいつでもご覧いただけます。



牧之原市 議会中継 クリック

ホームページで本会議や委員会の会議録を見ることができます。



今号の表紙

【地頭方保育園 楽しく体を動かそう!】

じゅんちゃん先生の体操教室の1こま。一生懸命拾ってもまた頭の上のケースから落とされるボールに、子どもたちは「も〜!!」と大笑いです。

編集後記

6月定例会では、「第3次牧之原市総合計画に関する特別委員会」が設置されました。総合計画は、長期的な展望に立つてまちづくりの方向性を示すものとなります。特別委員会では、委員間の討議を行い、議会の意見としてまとめ、提言していくことを予定しています。議会広報特別委員会は、提言内容を市民の皆様に分かりやすくお伝えしたいと思っています。(加藤)

議会広報特別委員会

- 委員長 原口 康之
- 副委員長 種茂 和男
- 委員 加藤 和彰
- 名波 和昌
- 絹村 智昭
- 石山 和生